

油彩画の「におい」について

油絵を描きたいけれど、制作中の「におい」が苦手を取り組めないという人がいます。今回はそのにおいの正体と、におい対策について述べてみます。

乾性油と揮発性油

制作中のにおいの原因は主に画用液です。画用液にはリンシードオイル(アマニ油)、ポピーオイル(ケシ油)などの乾性油(固着材)と、ペトロール、ターペンタイン(テレピン油)、ラベンダーオイルなどの揮発性油(溶剤)があります。ペンチングオイルなどの調合油には、乾性油と揮発性油の両方が含まれています。

乾性油においては、天ぷら油やサラダ油と同じ系統の植物油脂臭です。常温下では気になりませんが、何度も使ううちに、焼肉屋さんやお好み焼き屋さんに行ったときのような感じのにおいを出すようになります。これは、乾性油が空気中の酸素と重合し乾燥する際に出る、過酸化物質やアルデヒド類が入り混じったにおいです。フライパンに油をひいて過熱させると目の痛くなる場合がありますが、それに類した物質です。植物性の乾性油を強く加熱したときも同様なガスを発生しますが、油絵を描くのに加熱する人はいないので、乾性油においては単体ではそんなに気にならないはずですが、また、油絵具のチューブに入っているのも顔料と乾性油なので、絵具自体のにおいも不快ではありません。

しかし、揮発性油はそうはいきません。乾性油と違って常温化でどんどん空気中に散逸します。ターペンタインやラベン

ダーオイルのにおいはかなりきつく、画家は慣れていても、ご家族のひんしゅくを買うケースが多いという話をよく耳にします。油絵の制作中のにおいは主としてこの揮発性油臭で、これに油の重合臭が加わります。

オドレス画用液シリーズの活用

ターペンタインやラベンダーオイルのような、ほとんど単独といえる組成からなる溶剤は無臭化できません。しかし、ペトロールのような異なる組成物の入り混じった溶剤は、においの強い、不快な成分だけを選択して除去することで、においの弱い溶剤がつけられます。ホルベインの画用液に「オドレス」という名がついたシリーズがあります。オドレスは「無臭の」という意味の英語で、不快な石油臭を取り除いた製品についています。乾性油の重合臭は油彩画の乾燥機構に関わるので消せませんが、揮発性油にオドレスペトロールを使えば、制作時の石油臭は抑えることができます。このオドレスペトロールを使用した調合油がオドレスルソンプンとオドレスペンチングオイルで、描画用ワニスとしてはオドレスパンドルがあります。最後に、筆の洗浄にオドレスブラシクリーナーを用いれば、におい対策は万全です。



ホルベイン オドレス画用液シリーズ

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072(985)1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

holbein

ホルベイン絵具